STEP 1　簿記を始めよう！

☞ 該当過去問なし

STEP 2　簿記の流れを概観してみよう！

☞ 該当過去問なし

STEP 3　現金の処理をマスターしよう！

	1 Date	Time	2 Date	Time	3 Date	Time	4 Date	Time	5 Date	Time
Q3-1	1		2		3		4		5	
Q3-2	1		2		3		4		5	
Q3-3	1		2		3		4		5	
Q3-4	1		2		3		4		5	
Q3-5	1		2		3		4		5	
Q3-6	1		2		3		4		5	
Q3-7	1		2		3		4		5	
Q3-8	1		2		3		4		5	
Q3-9	1		2		3		4		5	

I　次の仕訳を行いなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

現　　金　　現金過不足　　受取手数料　　雑　　益　　通　信　費
旅費交通費　　雑　　損

Q3-1　A 2′00″

月末に現金の実査を行ったところ、現金の実際有高が帳簿残高より¥35,000過剰であることが判明した。そこで、帳簿残高と実際有高とを一致させる処理を行うとともに、引き続き原因を調査することとした。

Q3-2　A 2′00″

月末に金庫を実査したところ、紙幣￥200,000、硬貨￥10,000、得意先振出しの小切手￥30,000、約束手形￥50,000、郵便切手￥3,000が保管されていたが、現金出納帳の残高は￥238,000であった。不一致の原因を調べたが原因は判明しなかったので、現金過不足勘定で処理することにした。

Q3-3　A 2′00″

現金の実際有高が帳簿残高より不足していたため現金過不足勘定で処理していたが、本日、通信費￥5,800が記入漏れとなっていたことが判明した。

Q3-4　A 2′00″

現金の実際残高が帳簿残高より多かったため、現金過不足勘定で処理されていた¥10,000のうち、¥8,000は受取手数料の記入漏れであることが判明した。残額については不明のため、適当な科目に振り替えることにした。

Q3-5　A 2′00″

決算日において、現金過不足（不足額）￥20,000の原因をあらためて調査した結果、旅費交通費￥19,000の支払い、および手数料の受取額￥6,000の記入もれが判明した。残りの金額は原因が不明であったので、適切な処理を行う。

II　次の仕訳にもとづいて、解答用紙の勘定に転記しなさい。

Q3-6　A 1′00″

5月20日　（借）現　　金　1,000　（貸）現金過不足　1,000

Q3-7　A 1′00″

5月31日　（借）現金過不足　1,000　（貸）受取利息　700
　　雑　　益　300

Ⅲ　次の問に答えなさい。

Q3-8

A 12′00″ 114-2

次の資料にもとづいて答案用紙の小口現金出納帳に記入し、さらに週末における締切りも行いなさい。なお、当社は従来より定額資金前渡制度（インプレスト・システム）を採用している。また、小口現金の報告および小切手による補給は毎週末の金曜日に行われ、小口現金は¥50,000で次週に繰り越されている。

（資料）

11月	1日（月）	コピー用紙	¥3,400	新聞購読料	¥4,000
	2日（火）	切手・はがき	¥7,500	電車運賃	¥2,000
	3日（水）	バス運賃	¥3,200	ボールペン	¥1,900
	4日（木）	携帯電話通話料	¥6,400	お茶菓子	¥1,700
	5日（金）	タクシー運賃	¥2,800	伝票用紙	¥3,000

Q3-9

A 15′00″ 124-2

次の大阪商事株式会社の小口現金出納帳の記入にもとづいて、答案用紙の日付に行われるべき仕訳を示しなさい。大阪商事株式会社は、X21年10月より小口現金の管理方法として定額資金前渡法を新たに採用し、週のはじめに会計係は一定額の資金を用度係に前渡し、１週間の終わりに用度係は会計係に支払明細の報告を行うことにしている。そしてこの支払額にもとづいて翌週のはじめに資金の補給が行われることになっている。ただし、小口現金出納帳の内訳欄の記入は、省略されている。

小　口　現　金　出　納　帳

受　入	X21年		摘　要	支　払	内訳			
					交通費	通信費	消耗品費	雑　費
40,000	10	5	現　金					
		〃	はがき	2,000				
		〃	バス代	1,200				
		6	お茶	2,000				
		〃	電話料金	8,900				
		〃	封筒	1,600				
		7	電車代	3,000				
		〃	ボールペン	2,100				
		8	タクシー代	1,700				
		〃	郵便切手	1,500				
		9	新聞購読料	4,200				
			合　計	?				
		10	次週繰越	?				
?				?				
?	10	12	前週繰越					
?		〃	現　金					

STEP 4 預金の処理をマスターしよう！

	1 Date	Time	2 Date	Time	3 Date	Time	4 Date	Time	5 Date	Time
Q 4-1	1		2		3		4		5	
Q 4-2	1		2		3		4		5	
Q 4-3	1		2		3		4		5	
Q 4-4	1		2		3		4		5	
Q 4-5	1		2		3		4		5	
Q 4-6	1		2		3		4		5	
Q 4-7	1		2		3		4		5	
Q 4-8	1		2		3		4		5	
Q 4-9	1		2		3		4		5	
Q 4-10	1		2		3		4		5	
Q 4-11	1		2		3		4		5	

I　次の仕訳を行いなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

現　　金　　小口現金　　普通預金　　普通預金本郷銀行　　当座預金
当座借越　　仕　　入　　支払手数料　　支払家賃　　旅費交通費
消耗品費　　通信費　　雑　　費

Q4-1　A 2′00″

普通預金口座を開設し、現金￥500,000を普通預金に預け入れた。

Q4-2　A 2′00″

店舗として利用している建物の本月分家賃¥200,000が本郷銀行の普通預金口座から引き落とされた。なお、当社は水道橋銀行にも普通預金口座を開設している。

Q4-3　B 2′00″

銀行で当座預金口座を開設し、￥1,000,000を普通預金口座からの振り替えにより当座預金口座に入金した。また、小切手帳の交付を受け、手数料として￥1,000を現金で支払った。

Q4-4　B 2′00″

商品¥60,000を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。

Q4-5　B 3′00″

東京商店から商品￥800,000を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。なお、当座預金の残高は￥600,000であるが、借越限度額￥3,000,000の当座借越契約を結んでいる。

Q4-6　B 3′00″

先週末に受け取った千葉商店振出しの小切手￥200,000を当座預金に預け入れた。現在、当座預金の口座残高は￥150,000の借越しとなっている。

Q4-7　B 2′00″

決算にあたり、当座預金の貸方残高¥100,000について、適切な勘定へ振り替える。

Q4-8　A 2′00″

小口現金係から、旅費交通費¥40,000、消耗品費¥69,000および雑費¥21,000の小口現金の使用について報告を受け、同額の小切手を振り出して補給した。なお、当社は、小口現金について定額資金前渡制度を採用している。

Q4-9　A 3′00″

小口現金係から、次のとおり１週間分の支払報告を受け、支払額と同額の小切手を振り出した。
バス代　¥5,000　　事務用品代　¥6,000　　ハガキ代　¥6,800　　茶菓代　¥4,200

II　次の仕訳にもとづいて、解答用紙の勘定に転記しなさい。

Q4-10　A 2′00″

5月20日	（借）普通預金	1,000	（貸）現　　金	1,000
5月25日	（借）支払手数料	100	（貸）普通預金	100
5月30日	（借）定期預金	500	（貸）普通預金	500

Q4-11　A 2′00″

5月20日	（借）当座預金	1,000	（貸）現　　金	1,000
5月25日	（借）仕　　入	600	（貸）当座預金	600
5月30日	（借）当座預金	200	（貸）売　　上	200